

雛壇のみんな見て見てランドセル 雛壇に父母のなき雛かな
爪楊枝よりも短し雛の笛雛の間の燭台倒れ易きかな
階を御殿となせり雛飾るその色の淡く明るく雛あられ
雛壇に金の屏風の赤々と鳥の鳴く声も色々雛あられ
雛壇の左右に紅白砂時計頭だけ替へる剃刀雛の夜
女良しと書いて娘や雛祭心雛にも短き二月なりしかな
姉妹とも思ふ三人官女かな雛飾る人美しや雛祭
桃活けて雛はあらねどある如し雛飾る双子といへど姉いもと

桃活けて雛はあらねどある如し姉妹とも思ふ三人官女かな
雛飾るべき花丸の日曜日人去りて三人官女なに話そ
壱の棒壱の臍へと雛の段女良しと書いて娘や雛祭
階を御殿となせり内裏雛爪楊枝よりも短し雛の笛
雛飾り終へて縁側眩しけれ雛壇の前でくるとランドセル
雛壇の紅垂るる豊かな鳥の鳴く声も色々雛あられ
雛壇に金の屏風の赤々とその色の淡く明るく雛あられ
雛飾る人美しや雛祭砂時計雛調度にはあらざるも
雛飾る母娘のまとも手を休め雛の灯に早も二月の果てんとす

桃活けて雛はあらねどある如し爪楊枝よりも短し雛の笛
雛飾るべき花丸の日曜日砂時計雛調度にはあらざるも
壱の棒壱の臍へと雛の段雛壇に金の屏風の赤々と
雛飾る人美しや雛祭雛壇の紅垂るる豊かな
雛飾る母娘のまとも手を休め雛壇の前でくるとランドセル
雛飾り終へて縁側眩しけれ女良しと書いて娘や雛祭
階を御殿となせり内裏雛鳥の鳴く声も色々雛あられ
姉妹とも思ふ三人官女かなその色の淡く明るく雛あられ
人去りて三人官女なに話そ雛の灯に早も二月の果てんとす

桃活けて雛はあらねどある如し砂時計雛調度にはあらざるも
雛飾るべき母と子の日曜日雛壇に金の屏風の赤々と
壱の棒壱の臍へと雛の段雛壇の紅垂るる豊かな
雛壇の中に四角き闇いくつ雛壇の前でくるとランドセル
雛飾る人美しや雛祭鳴く鳥の声も色々雛あられ
雛飾る母娘のまとも手を休めその色の淡く明るく雛あられ
雛飾り終へて縁側眩しけれ炬燵にも分けてもらひし雛あられ
階を御殿となせり内裏雛女良しと書いて娘や雛祭
姉妹やも三人官女相似たり雛の間を鬼より守る常夜燈
人去りて三人官女なに話そ雛の灯に早も二月の終りかな

桃活けて雛はあらねどある如し人去りて三人官女なに話そ
壱の棒壱の臍へと雛の段砂時計雛調度にはあらざるも
雛壇の板子一枚下の闇雛壇の紅垂るる暈かな
蔵出しの箱出しの雛飾るなり雛壇の前でくるとランドセル
雛飾る人美しや雛祭 炬燵にも分けてもらひし雛あられ
あんなことそんなこと雛飾りつつその色の淡く明るく雛あられ
雛飾り終へて縁側眩しけれ 炬燵にも分けてもらひし雛あられ
よく晴れて雛を飾れば眠たしよ女良しと書いて娘や雛祭
階を御殿となせり内裏雛 雛の間を鬼より守る常夜燈
雛は赤に仏は金に座し給ふ雛の灯に早も二月の終りかな

桃活けて雛はあらねどある如し雛壇の紅垂るる暈かな
壱の棒壱の臍へと雛の段雛壇の前でくるとランドセル
雛壇の板子一枚下の闇鳴く鳥の声も色々雛あられ
蔵出しの箱出しの雛飾るなりその色の淡く明るく雛あられ
雛飾る人美しや雛祭 炬燵にも分けてもらひし雛あられ
雛飾り終へて縁側眩しけれ 女良しと書いて娘や雛祭
~~ま~~階を御殿となせり内裏雛 暖かな雨に眠たき雛かな
雛は赤に仏は金に座し給ふ雛の間を鬼より守る燭二塔
人去りて三人官女なに話そ雛の灯に早も二月の終りかな
砂時計雛調度にはあらざるも眠られよ雛を飾りしままなれど

桃活けて雛はあらねどある如し雛壇の紅垂るる暈かな
壱の棒壱の臍へと雛の段雛壇の前でくるとランドセル
雛壇の板子一枚下の闇鳴く鳥の声も色々雛あられ
蔵出しの箱出しの雛飾るなりその色の淡く明るく雛あられ
雛飾る人美しや雛祭 炬燵にも分けてもらひし雛あられ
雛飾り終へて縁側眩しけれ 女良しと書いて娘や雛祭
階を仮の御殿に雛飾る 暖かな雨に眠たき雛かな
雛は赤に仏は金に座し給ふ雛の間を鬼より守る燭二塔
人去りて三人官女なに話そ雛の灯に早も二月の終りかな
砂時計雛調度にはあらざるも眠られよ雛を飾りしままなれど